

俺の名前は青木清。探偵だ。

1月の雪が降る夜に、
一本の調査依頼の電話が入った。

「太郎と花子という店を調べてほしい。」



昼の部
たけしマスター



夜の部
さくらいマスター

夜9時を過ぎた頃、俺は店の前に立った。スタンド式のライトアップされた看板に「太郎と花子」とある。間違いない。この店だ。

俺が店のドアを開けると、「カランカラン」とドアチャイムの音、そして「いらっしゃいませ」とマスターらしき初老の男性が迎えてくれた。客は3人いた。

店内は橙色の灯に包まれていた。

4人掛けのテーブルが3つ。カウンターの椅子が7脚。
カラオケが1機と、テレビが2台設置されている。

俺は瓶ビールを注文した。

マスターによれば、この店は「たろはな」と呼ばれているらしい。それからこんなことも教えてくれた。昼は喫茶店、夜はスナックであると。

だから昼の部と夜の部で2人のマスターが交代で営業している。

俺は酒の肴が欲しくなり、マスターに声をかけたが、店にツマミは置いていないという。その代わり食べ物の持ち込みがOKだ。スーパーのVengaVengaやセブンイレブンでつまみを買って持ち込む者もいると言う。

夜も10時になり、雪が激しさを増してきた。今夜は店を早仕舞するらしい。マスターに尋ねると、雪が積もると帰りが危ないからだという。

俺も調査を打ち切り、店を後にした。寒さが身に染みた。

■太郎と花子

営業：月曜～日曜（日曜の夜は休業）

住所：神奈川県川崎市多摩区堰3-5-9 栄ビル1F

電話：044-822-3577